

環境モデル都市について

岡山県西粟倉村:10月30日(水)午後 高西 正人

林業で必ず発生する間伐材を上手く活用してエネルギーを作り出しています。この間伐材を安定的に手に入れるために、8年ほど林業での基盤を作り上げ、その中から安定的に間伐材の供給を受け再生エネルギーとして薪ボイラーを3つの温泉施設で使用しています。この事で、今までの灯油を使って15度で湧き出してくる源泉を温めるコストを約30%削減しました。(平成29年度)

また、今後村内の公共施設や村営住宅をこの熱供給システムで繋ぐ計画も進行中で、人口約1500人の小さな山の中の村で農協のガソリンスタンドも撤退するような環境の中、エネルギー政策は将来に向かって着実に進んでいます。

同時に、小規模の水力発電所を4カ所持ち、平成29年度の売電収入は6500万円。今後のエネルギー政策に向けて内部留保しながら、水力発電の規模を適正な大きさにし、村内の電力を出来るだけ多く賄うよう計画しています。同時に全てを売電しているわけではなく、村内に災害時用の供給スポットを設け、万が一の時のために備え、村民が電気を使用できるようにしています。もちろん非常時の電源として、公共施設にはすでに電気を供給しています。

平成の大合併時に、合併ではなく独自路線での村であり続ける選択をした西粟倉村。山の中の小さな村のエネルギー政策は、上毛町の将来を考える時、頭の片隅に忘れずに置き、場合によっては参考にさせてもらうべき、住民の日常生活の保障を有事の時にも行う事を考えたすばらしい内容でした。



6次産業の取組について

鳥取県八頭町:10月31日(木) 田中 唯登志

議会研修最終日、鳥取県八頭郡八頭町の「大江ノ郷自然牧場」に6次産業化の取組について視察に伺いました。グループ企業の(有)ひよこカンパニーは、平飼い鶏卵とその6次産業化が進み、それを基に直売所とレストランを展開し、10年前はゼロであった観光客を年間35万人にも増やしています。牧場の鶏は日光が差し込む開放的な鶏舎を走り回り、良質の水と自然配合飼料を摂っています。

その鶏が産む「天美卵」は鮮度を細かく管理し、採卵当日に自社工場から全国に発送されます。また、生産・加工・販売までを一貫して自社で行うことで安心安全で品質の高い商品として届けることで、全国的に高い評価を受けているとのこと。

この事業の根底には地元をより良くしたいとの創業者の強い思いが感じられました。



過疎地域の産業育成について

岡山県西粟倉村:10月30日(水)午前 岩花 寛之

視察研修2日目の午前中は、西粟倉村のエーゼロ(株)を視察しました。西粟倉村は人口1468人、607世帯、約60平方キロの村面積の内93%が森林という一見して過疎、辺境の村ですが、視察したエーゼロ(株)をはじめ、ローカルベンチャーと言われる会社の起業により、約1割が移住者とその家族で構成されるまで活発化しています。

その中心となったのが、エーゼロ(株)であり「地域を醸す」というコンセプトのもと、「くらす・はたらく・いどむ・めぐる・であう」という5つの視点から行政と共にタイアップしながら全国的にも注目される取組を行っています。

西粟倉村の取組が活発化し始めたのは今から約15年前、2006年に森林組合から独立した工房からスタートしました。2007年には「村の人事部」という雇用対策協議会の立上げが行われ、地域外からの移住促進に力を入れました。

その中でターニングポイントとなったのが「百年の森林構想」という地域に根差し、小さな村ならではの取組で未来を創ろうという提言です。この構想は単に「森」だけを対象にするのではなく、西粟倉という地域と人の想いを、過去～現在～未来に丁寧に繋いでいくという意味の表れでした。

その後、ローカルベンチャーという「田舎の起業家」たちが増え続け、2018年現在、移住者累計100名以上、ベンチャー起業数30社、売上15億円という実績となっています。特筆すべきは園児・児童・生徒数の推移で、2000年から3割以上減少したものの、2012年以降は増加に転じ、現在も一定の水準を維持しています。

また、移住の募集方法もユニークで、誰でも良いから来てほしいというスタンスではなく、具体的な業種を募集し、村に「仕事を持って来てもらう」という方針でした。エーゼロ(株)を中心に情報発信にも力を入れており、インターネットでも多くの情報を誰でも知ることができることも、魅力的な地域の特徴だと感じました。

ローカルベンチャーが活性化することで移住定住、民間移譲、関係人口が増え、地域に多様な事業がそれぞれの役割を担うという構造ができつつあります。

上毛町も62平方キロの内、約62%が森林となっており中山間地の活性化は喫緊の課題であり、周辺地域の中山間地に比べ、飲食店や物販事業所などの出店は少ないように感じます。西粟倉村の取組を参考に、田舎ならではの良さを活かしながら、「暮らしを楽しむ」地域づくりに取組みたいと思います。

